

警防活動時等における安全管理マニュアル 改正点

1 マニュアル構成・内容

- (1) 総論と各論の二部構成に変更はないが、各論部分の「火災防ぎよ総論」を総論部分に移動することで、総論を導入部分と位置づけ
- (2) 各委員の意見等を反映し、次のとおり項目の追加等を実施

追加事項	追加場所
熱中症対策	「Ⅰ 総論 § 1」に「5 熱中症対策」として項目追加
倉庫火災（サンドイッチパネル） その他倉庫火災留意事項	「Ⅱ 各論 § 1 2 耐火建物火災」の留意事項に溶け込み
RDF施設関連	「Ⅱ 各論 § 1 3 危険物等火災」に項目追加
ハイブリット車等に対する活動	「Ⅱ 各論 § 1 7 車両火災」及び「Ⅱ 各論 § 3 2 交通事故」の留意事項に溶け込み
NBC災害	「Ⅱ 各論 § 2 1 NBC災害」と名称変更し、サリン事故、原子力施設等を項目追加
硫化水素事案	「Ⅱ 各論 § 2 1 NBC災害」に項目追加
大雨災害時の警戒活動	「Ⅱ 各論 § 2 3 風水害」の留意事項に溶け込み
鉄道災害	「Ⅱ 各論 § 3」に「3 鉄道事故」として項目追加
急流河川での救助活動	「Ⅱ 各論 § 3 4 水難事故」に項目追加
国民保護事案	「Ⅱ 各論」に「§ 5」として項目追加

- (3) 近年の事故等を受けて、特に「Ⅰ 各論 § 2 行動総論」の「2 出動中」及び「4 現場活動」の留意事項を追加

2 事故の追加

- 過去の職団員の死亡事例を事故事例に追加
- ヒヤリハットデータベースから、事故の重症度や頻度から事例を抽出し、マニュアルの事故事例として追加

3 レイアウト変更

(1) より見やすい構成とするため、縦4列の表から、縦2列の表に変更

項	目	行 動 内 容	ね ら い
	隊 員	る。 4 指揮者は、他隊または全体の行動を十分に把握し、一体となった部隊活動を行うよう努める。 5 指揮者は、状況が急変した場合には、状況に応じた的確な判断を下し、速やかに隊員の安全確保のため、必要な指示を与える。	◎ 指揮統制の一元化
		1 隊員は、旺盛な士気により、常に任務を完遂する気概を保持する。 2 隊員は、指揮者の指示・命令を遵守する。 3 隊員は、常に災害現場における安全の確保に努めるとともに、相互の連絡を密にし、チームワークの保持に努める。 4 隊員は、状況が急変した場合等、指揮者の状況判断に必要な情報を直ちに報告する。 5 隊員は、自己の行動内容及びその結果について随時指揮者に報告する。	◎ 隊員の心構え ◎ 指揮者の命令の遵守 ◎ 安全の確保とチームワークの保持 ◎ 状況急変時の速やかな報告

2 行動総論

項	目	活 動 内 容	留 意 事 項	事 故 事 例
1	出動前	1 執務時	1 庁舎内の通路の段差、曲り角等での転倒や衝突に注意する。 2 部屋のドアを開閉するときは、開閉方向の人の気配に注意し、衝突を防止する。 3 庁舎内は日頃から整理整頓しておくとともに、出動にあたっては、机、ロッカー等との接触に注意する。	▶ 出動時、庁舎内で地図を見ながら歩行中、通路の段差に足をとられ足首を捻挫した。
	2 仮眠時	1 出動指令があった場合は、点灯スイッチのそばにいる隊員が速やかに照明灯を点灯する。		▶ 点灯が遅れたため、暗やみの中で、他の隊員の靴につまづき転倒、顔面を打

(変更前) 縦4列構成

1 出動前	
(1) 執務時	
留 意 事 項	事 故 事 例
1 庁舎内の通路の段差、曲り角等での転倒や隊員同士の衝突に注意する。 2 部屋のドアを開閉するときは、開閉方向の人の気配に注意し、衝突を防止する。 3 庁舎内は日頃から整理整頓しておくとともに、出動にあたっては、机、ロッカー等との接触に注意する。	▶ 出動時、庁舎内で地図を見ながら歩行中、通路の段差に足をとられ足首を捻挫した。
(2) 仮眠時	
留 意 事 項	事 故 事 例
1 出動指令があった場合は、点灯スイッチのそばにいる隊員が速やかに照明灯を点灯する。 2 仮眠室内は通路部分が狭いので、他の隊員等と衝突しないよう注意する。 3 作業服、靴を着用しながら、庁舎内等の通路を走らないようにする。	▶ 点灯が遅れたため、暗やみの中で、他の隊員の靴につまづき転倒、顔面を打撲した。
(3) 乗車前	
留 意 事 項	事 故 事 例
1 出動指令内容を確認し、災害地点、水利、出動経路等を確認する。必要に応じて出火建物等の危険情報を周知する。 2 ガレージ内における防火衣の着脱は、隊員相互の間隔をとり、周囲に注意する。 3 階段を使用するときは、足下に注意し、確実に降りる。 4 複数の消防車両が出動する場合は、車両の前方を通過して乗車しない。 なお、各車両の指揮者は、前方を確認してから発進の合図を行う。 5 柱（壁体）と車両、車両と車両の間等、狭い場所をすり抜けて乗車する場合は、転倒等に注意する。 6 防火衣等の着脱は、原則として乗車する前に行い、走行中には行わないようにする。	▶ 階段を数段飛び降りたため、足首を捻挫した。 ▶ 車両と車両との狭い場所を通過して乗車しようとした際、他の車両が発進したため、背負っていた空気呼吸器がその車両にあたられ転倒し、右ひざを打撲した。

(変更後) 縦2列構成

(2) どの部分を読んでいるかが明確になるよう、ページの右上部分に項目を表記

項	目	活 動 内 容	留 意 事 項	事 故 事 例
	3	乗車前	2 二段ベッドの上段で仮眠中の隊員は、出動時ベッドから飛び降りないようにする。 3 仮眠室内は通路部分が狭いので、他の隊員等と衝突しないよう注意する。 4 作業服、靴を着用しながら、庁舎内等の通路を走らないようにする。	撲した。 ▶ 出動時、二段ベッドの上段から飛び降り、足首を捻挫した。
			1 出動指令内容を確認し、災害地点、水利、出動経路等を確認する。 2 すべり棒等を使用するときは、先の隊員が完全に降りたことを確認してから降下する。 3 すべり棒等を使用するときは、つま先から軽く着地する。 4 階段を使用するときは、足下に注意し、確実に降りる。 5 複数の消防車両が出動する場合は、車両の前方を通過して乗車しない。 なお、各車両の指揮者は、前方を確認してから発進の合図を行う。 6 柱（壁体）と車両、車両と車両の間等、狭い場所をすり抜けて乗車する場合は、転倒等に注意する。	▶ すべり棒で降下時、他の隊員の頭上に降り、けい棒を捻挫させた。 ▶ すべり棒で降下時、勢いよく降下したため、足首を捻挫した。 ▶ 階段を数段飛び降りたため、足首を捻挫した。 ▶ 車両と車両との狭い場所を通過して乗車しようとした際、他の車両が発進したため、背負っていた空気呼吸器がその車両にあたられ転倒し、右ひざを打撲した。

I (総論) § 2 行動総論	
(4) 乗車時	
留 意 事 項	事 故 事 例
1 乗車するときは、他車両のドアの開閉に注意する。 2 車両のドアは、確実に閉めてロックする。 3 隊員は、指定の位置に正しく乗車し、固定物を握り乗車確認を行う。 4 指揮者は、隊員の乗車状況を確認したのち、機関員に合図を行う。 また、機関員は、指揮者の合図があるまで発進しない。	
2 出動中	
留 意 事 項	事 故 事 例
1 出動中の車両の運行は、交通関係法規、内部規程、通達等に規定する事項を遵守する。 2 緊急走行時は、機関員はあせりを感じ判断力が低下することもあるので、できる限り余裕を持って運転するよう心がける。 3 出動に際して、シャッター等がある庁舎においては、シャッター等が完全に開放されているかを確認する。 4 出動の際は、誘導員の合図だけでなく、庁舎出口の周囲の交通状況や通行人の安全を自分の目で確認する。 5 緊急走行中は意をできる限り開放し、乗車員全員で安全を確認する。また、安全確認呼吸を確実に実施する。 6 前後方左右のみの注意喚起にとらわれず、高い箇所の障害物に対する安全確認は、乗組員全員で行うなど注意を払うこと。 7 走行中、指揮者は必要に応じて拡声器、警笛等を使用し、一般車両や歩行者に注意を喚起する。 特に、商店街、狭い道路及び横断歩道を通過するときは、横断歩道を飛び出してくる車両や歩行者に十分注意するとともに、荒天時及び渋滞時は、細心の注意を払う。	▶ 火災出動途中、狭い道路を走行中、横断歩道を通過する際、一時停止を行わず交差点に入ったため、一般車両と衝突し、隊員及び一般乗客が負傷した。 ▶ ボンプ車2台が重なって火災現場へ急行中、先行車両が急停車した際、後続の車両が十分車間距離を保てなかったため、追突した。 ▶ 火災現場への路上、急に火煙が見えたため、それに気づかれずに運転を続け、火煙に巻き込まれた。

柱部分に項目表示